

令和4年度 第2回 調布市子ども発達センター運営会議 議事録要旨

日 時 場 所	令和5年2月10日(金) 午後2時45分～4時 Zoomを使用したWeb会議
出 席 者	1 運営会議委員 出席：9人 欠席：3人 2 オブザーバー 2人 3 事務局 9人
議事次第	1 センター長あいさつ 2 委員・事務局等紹介 3 議題 (1) 令和4年度実施状況について (2) 令和5年度の各事業の方針について (3) その他 ア 個別記録票「i-ファイル」に関するアンケート調査について イ 子ども発達センター空調設備ほか更新工事について 【配付物】 資料1 令和4年度利用状況について 資料2 発達相談コーディネーターの活動状況について 資料3 令和5年度の各事業の方針について 資料4 個別記録票「i-ファイル」に関するアンケート調査について 資料5 調布市子ども発達センター運営会議要綱 資料6 調布市子ども発達センター運営会議委員名簿
議事	1 センター長あいさつ 2 委員・事務局等紹介 (1) 委員及び事務局の紹介 (2) 事務局から本会議の主旨を説明 (3) オブザーバーの出席承認 3 議題 (1) 令和4年度実施状況について ●実施状況について(令和2年度から令和4年度までの数値 ※令和4年度は、令和4年12月31日時点での数値) ア 利用人数 通園事業42人 発達支援事業563人 合計605人 イ 発達支援事業の事業別利用人数(延べ数) 事業を重複して利用したり、年度途中で利用事業を変更した場合、それぞれに延べ数として記載。 1歳児グループ4人 2歳児グループ43人 幼児グループ18人 3・4・5歳児の親子グループ70人 作業活動グループ24人

個別の言語・心理療法360人 個別の運動療法25人
個別の作業療法31人 合計575人

ウ 新規利用相談

相談児数412人 初回相談数261人 利用申請数172人
相談児数とは、全ての相談、電話相談や検査、報告書作成、他機関との連携等が含まれている。

エ 相談事業述べ支援数

利用相談1,229人 一般相談（小学生以上や匿名の相談）227人
在籍児相談（他機関との連携、検査や書類作成、面談等）253人

オ 子ども施設訪問事業

訪問施設数 11施設 利用人数14人

カ 緊急一時養護事業

延べ利用者数 緊急一時養護事業51人 リフレッシュ支援事業111人

キ 障害児相談支援事業

計画作成件数121件 モニタリング数93件。

ク 保育所等訪問支援事業

5人 21回実施

●発達相談コーディネーターの活動状況について

ア 勤務

昨年11月から配置。月16日、午前9時から夕方5時まで。

イ 職務内容

子どもの発達相談に関する総合案内窓口として位置づけ、子どもの発達や地域資源に関する情報収集、情報提供、関係機関への橋渡しなどの役割を担っている。

ウ 活動状況（令和4年12月末日現在）

市報や市のホームページ、ツイッターなどのSNS、子ども発達センターの保護者向けお知らせメールなどで周知。市の関係部署への挨拶回り、チラシの配布も行った。調布エフエムのラジオ番組にも出演し、現在も市民の皆様への周知を行っている。親の会などの関係機関の皆様にも御挨拶に伺う予定。

エ 相談実績

12月末日現在、未就学児4件、小学生5件、高校生1件の計10件の相談に対応した。コーディネーターは心理士として医療機関などで発達検査を取っていた経験があり、年齢に応じた検査や就学以降の発達段階についても知識があるため、保護者へ分かりやすい説明や具体的な対応方法などの助言を行っている。

オ 相談体制の強化

発達相談コーディネーターの配置による効果として、就学以降のお子さんの相談に関して、子ども発達センターにおいてより具体的な助言が可能になったこと、医療機関や療育機関の情報収集について、各機関に直接連絡して確認するなど、最新かつ詳細な情報を収集することができたこと、また、今後の連携に向けた関係づくりができ始めていることが挙げられる。

質疑応答

〈 委員 〉

発達支援事業の人数が減少しているように見えるが、何か理由があるのか。

〈 事務局 〉

理由については、精査しなくてはならないが、コロナの影響もあると思われる。予約が入っていても、コロナの関係で欠席になったり、保育園等の休園が理由でキャンセルされることも多かった。

〈 委員 〉

コロナの影響も大きいとは思いますが、他の児童発達支援の利用との兼ね合いもあるのか。もしあれば教えていただきたい。

〈 事務局 〉

市内の児童発達支援事業所との話合いがあるので、利用状況等を伺う予定である。

〈 委員 〉

発達支援事業の4歳児の人数が減少しているように感じる。これはやはりコロナの影響で健診を受けられなかったことが関係しているのか。乳児健診が一時中止されていて、発達センターと健康推進課とで連携が取れなかった影響等があるのか。

〈 事務局 〉

コロナで健診が中止になったために利用児が減少したのか、申し訳ないが、今の段階では分からない。

〈 委員 〉

発達相談コーディネーターの方の勤務日数が月 16 日ということだが、これはお休みの曜日があると理解したらよいのか。

〈 事務局 〉

発達相談コーディネーターは会計年度任用職員として採用しており、月当たりの勤務日数が 16 日となっている。原則、週休日を火曜日に設けているが、事業の関係や研修等で、別の曜日に休むこともある。ただ、休みの日についても御相談などがあれば、相談担当の職員が対応しているので、市民の方からのお問合せ、相談が受けられないということではない。

〈 委員 〉

広報活動について、いろいろな形で広報していただいて、大変ありがたく思っている。実際に未就学児以外に小学生や高校生などの相談があったということだが、この方たちは何を見て、こちらに連絡があったのか教えていただきたい。

〈 事務局 〉

市報やLINEで情報を発信した後は、「市報で情報を見た」「LINEで見たので」

とおっしゃっていた方は数名いた。しかし、ご相談された方すべてに、どの媒体でお知りになったのか調査をしていないので、詳しくは分かりかねる。

〈 委員 〉

いろんな発信方法をしていただいたことで、小学生とか、高校生も相談ができてよかったと思っている。発達相談コーディネーターとの相談は、今の発達センターの相談事業と同様に、子どもは一緒に相談できないと考えてよいか。

〈 事務局 〉

はい。基本的に小学生以上の方は、電話や来所で保護者の方からの相談を受けており、コーディネーターも同様である。

〈 委員 〉

発達センターを利用されている方々が特に聞きたい情報の中に、現在の小学校の状況がある。コロナ禍で、学校の運動会や地域公開だった行事が一般開放されておらず、小学校の情報がとても不足している状況にある。この件について、こういった形で対応される予定か。既に対応されているのであれば、教えていただきたい。

〈 事務局 〉

小学校の状況を知りたいという御意見はいただいているが、今の活動状況としては、小学校との連携はまだ始められていない。先日、各小学校のコーディネーターが集まる委員会にはコーディネーターも一緒に出席して、活動内容等について紹介をした。これからできることをしていきたいと考えている。

(2) 令和5年度の各事業の方針について

令和4年度の実施状況とともにポイントを説明

ア 通園事業について

調布市社会福祉事業団に運営を委託。

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら実施した。今年度は、年長児の保育園との交流保育を再開した。今年度から栄養士が新規に1人配置されたことで、アレルギー対応の徹底、季節感を取り入れた献立の作成、お子さんの発達段階に合わせた食形態の工夫、食材を割いたり、皮をむいたりする食育体験も実施している。今後も事業団との連携により安定的な運営に努め、引き続き専門性の確保と療育内容の充実を図っていく。

イ 発達支援事業について

こちらも、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、縮小していたグループの定員数をコロナ禍前の人数に戻して実施した。個別療育や、41のグループ療育を実施。3歳児以上のグループでは、継続して「グループ目標」と「グループ課題ポイントシート」の配付を行った。2歳児グループでは、初回の懇談会でグループの狙いやお子さんへの関わり方をお伝えし、療育の中でさらにお子さん一人一人への関わり方を助言している。個別療育では、初回の利用時に療育のねらいや内容を簡単にまとめたプリントを配付し、保護者に説明

議事

を行った。来年度のグループ編成については、今年度の実施状況や利用予定児の状況を踏まえて検討している。

ウ 相談事業について

今年度の延べ支援件数は、12月末現在 1,709 件。土曜日の初回相談は4年目に入り、安定した状況で実施できており、御両親そろって来館される方もいらっしゃり、御家族で相談しやすい日になっている。

子ども施設支援については、引き続き新型コロナ対策のため、日程や実施方法、内容を変更するなど工夫して実施した。療育見学会は、コロナ禍前と同じように療育の様子が見学できる午前の時間帯に戻して実施した。見学は療育室には入らず、廊下から様子を見ていただいた。子ども施設訪問事業は、11 施設へ訪問した。今後も地域施設との連携を深めながら、保護者がより相談しやすくなるよう、事業の運営方法や内容を見直していく。

エ 緊急一時養護事業・リフレッシュ支援事業

令和2年10月に休日や夜間の利用を可能にして以来、利用者数が年々増加し、事業の利用登録者数も12月末時点で132人と増加している。また、基礎疾患や食物アレルギーのある利用者が増えていることから、事前の詳細な聞き取り等、特別な対応が必要となっている。来年度も事業を安全に運営できるよう、運営体制の整備に努めていく。

オ 相談支援事業

今年度の利用者数は12月末現在123人で、新規の契約者は通園事業の利用を開始した方が中心だった。来年度も保護者に寄り添いながら、利用児が地域の中で安心して生活できるよう、事業を実施していく。

カ 障害児等福祉教育連携会議

i-ファイルの配付開始から10年以上の年月が経過していることから、i-ファイルがより活用しやすいものになるよう見直しを図るため、今年は保護者の活用状況やニーズを確認するアンケート調査を実施している。今後もi-ファイルが子どもの健やかな成長にさらに役立てられるよう、関係部署との連携を深め、内容の見直しや周知活動に取り組む。

キ 巡回支援事業

保育園・幼稚園の職員にお子さんの対応やクラスの運営方法等について助言や研修を行うことにより、お子さんへの支援のスキルの向上を図るため、令和2年度の試行を経て、令和3年度から本格実施している。今年度は5月から認可保育園4園に、2か月に1回訪問している。継続して訪問し、振り返りを重ねていくことで園の職員が相談しやすい環境づくりができ、今ある困り事への短期的な相談・助言だけでなく、来年度のクラス運営を見据えた中長期的な相談・助言も行っている。次年度は担当する専門職員を増員し、訪問園数を増やすなど、今年度の振り返りや課題を踏まえ、引き続き実施していく。

ク 地域支援の充実

市民に子ども発達センターを身近に感じてもらうことや、コロナ禍において減少している保護者同士の交流の場を提供することを目的とし、コロナ禍前まで実施していたセンターまつりの内容を変更し、「行ってみよう！スクッピーのオープンデー」というイベントを実施した。

また、地域における中核的支援を進めるにあたり、児童発達支援事業所等連絡会と医療的ケア児支援関係機関連絡会を開催し、情報交換や課題の確認などを行っている。次年度以降も地域の関係機関と連携し、支援内容と体制の充実を図っていく。

ケ その他

次年度も引き続き新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら、安心して事業を運営できるよう、国や東京都の動向や取組に注視し、柔軟に対応していく。また、子ども発達センターは開設から13年が経過し、施設の設備等に不具合も生じており、簡易なものは都度修繕している。今月から7月までの間で、館内の空調設備等の更新工事を行っていく予定である。工事に伴い、空調設備の使用ができない期間が発生するほか、療育で使用する部屋の調整等が必要になることが見込まれるが、極力療育に支障が生じないように配慮する。今後とも利用者の御理解、御協力を得ながら、よりよい療育環境の整備に努めていく。

質疑応答

< 委員 >

発達支援事業の保護者への説明について、以前よりも丁寧に各保護者への療育のねらいの説明をしてくださることで、保護者の理解がより進んでいるように感じる。改めてお礼を申し上げたい。

緊急一時養護事業とリフレッシュ支援事業について、年々利用者が増加しているようだが、利用時間等を拡大していただいたことで、以前よりも利用しやすくなり、とても助かっているという保護者の声を聞いている。先生方はとても大変だと思うが、拡大してくださって本当にありがたい。

まだリフレッシュ支援事業があることを御存じない方、気づいていらっしゃらない方も多いようなので、都度都度告知していくと、より利用につながるのではないかとと思う。

地域支援の充実に関して、今年久しぶりに実施されたスクッピーのオープンデーに、発達センター利用を終了した息子たちと参加した。子ども達は利用が終了した後に発達センターと関わることは全くなかったが、久しぶりにセンターを利用することで、すごく楽しかったことを思い出して、とても充実した顔をして帰ることができたので、改めて発達センターに通っていたことの意義や、充実していたことを思い出したので、こちら併せてお礼を伝えたい。

< 事務局 >

いろいろ改善して、我々なりに頑張っているところだが、まだまだ追いつかないところも多々ある。このような場で、やっていることに対して反応を返してくださるといのは、我々の仕事の励みになる。今後も頑張っていきたいと思うので御意見いただければありがたい。

< 委員 >

きょうだい児保育について、実は親の会で何度か要望して、なかなか難しい問題と言われていたが、今見ると、それが当たり前のように入っていることにとっても感動している。

巡回支援事業について、「令和5年度は専門職の方を増員し」とあるが、この専門職はどういった専門職なのか。

保育所等訪問支援事業について、作業療法士の方の訪問は、とても素晴らしいことで、今学校でも作業療法士を入れようという働きかけもあるようだが、なかなか難しいと言われている。保育所等訪問支援事業は本来、小学校も対象となっている事業で、多分現状では子ども発達センターでは難しいと思うのだが、例えば年度の途中からまたがって、小学校への訪問支援というのができるのかお聞きしたい。

〈 事務局 〉

巡回支援事業の専門職は、現在もセンターの言語聴覚士と心理士、保育士で行っており、次年度も同じ体制で行っていく。

〈 事務局 〉

保育所等訪問支援については、今のところ、就学前のお子さんに限定している。御要望があることは重々承知している。利用は1年間限定としており、12月末までに5人、現在は6人の方が御利用されているが、受入れがマックスに近い状況であることを御理解いただきたい。

〈 委員 〉

では巡回支援事業には、作業療法士の方は入っていないということか。

〈 事務局 〉

今の段階では入っていない。

議事

(3) その他

ア 個別記録票「i-ファイル」に関するアンケート調査

(ア) 対象

子ども発達センターの通園事業やグループ療育を利用しているお子さん、令和3年度にセンターを卒業された現在小学校1年生のお子さん、特別支援学級や特別支援学校に在籍している小学校5年生、中学校2年生のお子さんの保護者の方など約300人。親の会で調査に御協力いただける有志の方。

(イ) 調査期間

令和5年1月5日から2月10日

2月9日の時点での回答者数 78人

(ロ) 調査内容

i-ファイルの認知度や使用方法、使用場面、i-ファイルの内容や形状に関する希望など。

質疑応答

〈 委員 〉

うちは高校3年生なので、対象者には入っていませんでしたが、親の会を通じて回答させていただいた。今78名の回答を得られているということだが、不足している印象か。親の会で最後のお願いをする必要があれば、メールをするなど対応したい。

〈 事務局 〉

もし今日中にお答えいただける方がいて、回答数が伸びるとありがたい。

〈 委員 〉

通園あゆみの保護者には、資料で何度か依頼が来ていた。通園あゆみの回答率はどれくらいか。

〈 事務局 〉

今日時点で、18人にご回答いただいている。

〈 委員 〉

父母会のLINEがあるので、各クラスの役員にアンケートについて連絡できる。今日も、通常ならあゆみの通園は14時半までだが、雪で13時降園という連絡がメールで来た。しかし皆メールは見ないようで、たまたま父母会のLINEで1人の方が、13時降園になったと言ったら、数名の方は知らなかった。多分紙の媒体やメールだとなかなか見ないので、LINEだと周知しやすいと思う。

〈 事務局 〉

今後アンケートを行うときには、LINE等の手段も考えたい。

〈 会長 〉

今の学生たちも、やはりほとんどメールを見ない。LINEが今主流だが、SNSを使うと回答率が伸びるのではないかな。

グーグルフォームでアンケートを取っているのか。回答時間はどれくらいか。

〈 事務局 〉

LOGOフォームという調布市役所で導入しているアンケート調査のシステムで行っている。回答時間は、i-ファイルを使っていない・知らない方だと3分程度。i-ファイルを使っている方だと、さらに深く聞いていくため、長いと8分から10分位かかってしまう。

〈 会長 〉

やはり短ければ短いほど回答率は上がるし、メールよりもLINEを使う等、工夫されるともっと伸びるのではないかな。

議事

イ 子ども発達センター空調設備ほか更新工事について

空調更新工事の請負業者は、入札の結果、宮沢設備工業株式会社という飛田給にある業者に決定した。発達センターの開設の際にも携わっており、これまでも発達センターの設備の軽微な修繕についても対応いただいている。

今月は、主に現地確認、現地調査を行う予定であり、現地調査の結果、詳細な工程やスケジュールが決定する。スケジュールが未定のため、まだ不透明だが、早ければ今月末から来月初旬にかけて可能な範囲での作業が始まることを

意見交換

見込んでいる。

全館工事のため、工事に伴い、空調設備の使用ができない期間が発生するほか、療育で使用する部屋の調整等が必要になることが見込まれるが、極力療育に支障が生じないように配慮する。今後も利用者の御理解、御協力を得ながら、よりよい療育環境の整備を進めていく。

〈 会長 〉

議題は以上になるが、委員の皆様で情報交換や何か御意見等があるか。

〈 事務局 〉

先ほど委員から御質問いただいた、令和5年度の各事業の方針の巡回支援事業について補足したい。「専門職を増員し、訪問園数を増やすなど」と書いているが、当初増員の方向で考えていたが、既存の会計年度職員の日数を増やして調整し、増員ではなく日数増で対応させていただく方向で考えている。

〈 委員 〉

職員の方の負担が増えてしまい大変だと思うが、よろしくをお願いします。

〈 会長 〉

事業方針、8の巡回支援事業の文面は修正されるのか。

〈 事務局 〉

実質担当する職員を増員するということは変わらないため、修正はしない。

〈 委員 〉

センターの事情は重々承知だが、利用者の方から、個別やグループ活動の回数を増やしてほしいという御意見が多い。それは個別に相談すれば対応可能なのか。個人的には療育の回数が増えたから、それで効果が上がるということはないと、経験上分かっているが、どうしても幼児さんのお母様方は、個別の回数が月に1回だと、ものすごく不安になる。特に冬は、体調を崩してお休みすることも多いので、その振替等をしていただけないと不安がますます増えてしまう。専門職の先生方の日数の調整がつけば振替も対応できると説明があると、不安も解消されると思うが、いかがか。

〈 事務局 〉

保護者さんが自分の御都合でキャンセルされて、振替ができないことはある。回数的に物足りなさを感じていらっしゃる保護者さんの御意見があることも理解している。どのように療育を提供していくのが一番いいのか、日々考えてはいるところだが、保護者さんに寄り添いながら日頃のお悩みについて助言したり、お子さんにとって必要な療育を提供している段階で、回数自体を大きく増やすのは難しい。今後も、対応できることがあれば対応していきたい。

〈 事務局 〉

個別のキャンセルによる振替は、できるだけ対応するようにしている。しかし、日数上、振替が難しいこともあるので、対応可能であれば対応しているのが現状である。

〈 委員 〉

通園事業で保育園の交流保育が毎年行われていて、通園利用者の人数と保育園側との関係上、日数が毎年同じではないことは昔から聞いているが、コロナ禍でそれもさらに減ってしまっているのか。今年度の状況を教えていただきたい。

〈 オブザーバー 〉

今年度は5歳児のみを対象に御希望を取り、9名中6名の方が御希望されて、1人3回行けるように調整した。コロナの状況を見て、11月に開始して先月まで行っていた。体調不良や園の感染症等で、行けないことがある方もいらっしゃったが、保育園さんに掛け合えば、すごく好意的に受けてくださってうれしく感じた。昨年一昨年も行けなかったが、園長会に行った際に、ぜひ来てくださいという声もあった。本当に数少ないことではあるが、少し経験が積めたと思っているので、ぜひ継続していきたい。

〈 委員 〉

民間の幼稚園だと年長児の小学校訪問があるが、通園あゆみは小学校訪問について検討されたことはあるか。

〈 事務局 〉

通園全体で小学校の体験をすることは、今まで検討したことはないが、就学相談になるべく早めに行った方が、見学や体験もできるとお勧めはしている。

〈 委員 〉

年長の9名中6名の方が交流保育を希望ということなので、それを望まない方もいるとは思いますが、小学校ってどんなところか分からないというのは、保育園や幼稚園に通われているお子さんよりも強いと思うので、そういう機会があるとよいと思っている。難しいと思うが、例えば交流保育をしている保育園のお子さんが小学校に行くときに一緒に行く等で学校を見ることができたらよいと思う。

〈 会長 〉

今日は欠席しているが、教育委員会の方もこの会のメンバーなので、ぜひ今の御発言は耳に入れていただき、すごく大事なことだと思うので、検討していただければと思う。

〈 委員 〉

私の息子たちも保育園の時、2月頃に学校に1時間ぐらい遊びに行かせていただいて、1年生と年長さんが一緒に遊ぶ交流があった。就学相談のことを考えると、もっと早い時期にできるとよいが、学校がこういう大きな建物で、今までと違う場所に行

連絡事項	<p>くのだたと体験するのは、3学期になってからでもいいことなので、それぞれのお子さんが行く学校ではなくても、支援学級ですとか支援学校ですとか、ほんの1時間ぐらいで構わないので、行ける機会があればいいなと思う。そこは各学校の校長先生との交渉次第なのか。それぞれのお子さんのいい経験になると思うので、進めていただきたい。</p> <p>〈 事務局 〉</p> <p>子ども発達センター運営会議は年に2回開催しており、令和4年度は今回で終了となる。来年度第1回の日程につきましては、7月頃を予定している。開催方法については、新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえて決定する。</p> <p>これにて第2回運営会議は終了する。</p> <p style="text-align: right;">—了—</p>
------	---